



# 240316 多奈川ビオトープ 自然再生活動



- この日はポカポカ陽気… 😊
- ビオトープ池や湿地の水面維持管理、エリア内の草地の維持管理の作業を行いました
- 休憩時には、ハンモックに揺られながら「まったり」春の兆しを満喫！
- この日の新聞に、「自然共生サイト」内定の記事が掲載されました… 😊

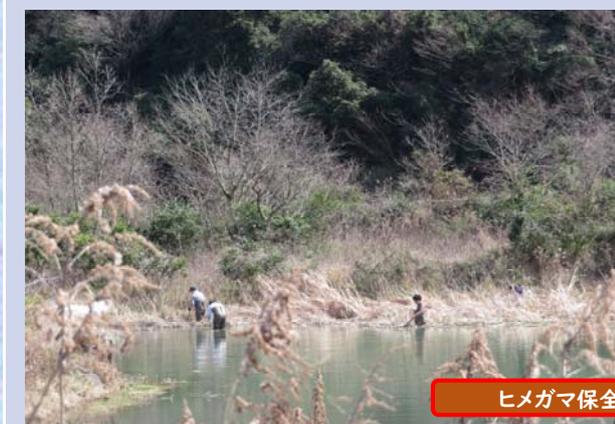
(読売新聞 朝刊 地域版(府内全域))



湿地とビオトープ池



自然再生活動



ヒメガマ保全ゾーン管理作業



水面維持管理作業



草地維持管理作業



湿地維持管理作業



ハンモックでまったり



オカヨシガモ (メス)



ツバメシジミ (オス)



オツネトンボ (産卵)



オタマジャクシ (アカガエルの幼生)



タヌキ (自動撮影カメラ画像)



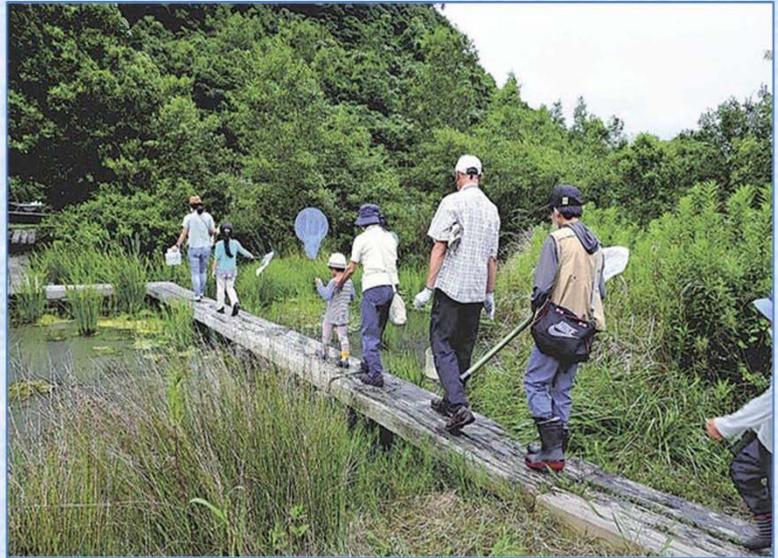
アライグマ (自動撮影カメラ画像)

## 自然共生サイト 新たに2か所

2024/03/16 05:00

### 泉南「ドコモ泉南堀河の森」 ／岬町「多奈川ビオトープ」

企業や住民らの取り組みで生物多様性の保全が図られている地域として環境省が選ぶ「自然共生サイト」に、府内で新たに2か所が内定した。近く正式認定されれば府内で計6か所となる。政府は、2030年までに陸と海の30%以上の自然を保全する「30by30(サーティー・バイ・サーティー)」を目標に掲げており、関係者は「認定を契機にさらに保全の輪を広げたい」と意気込んでいる。(北口節子)



岬町の多奈川ビオトープ(岬町提供)

### 府内6か所に「保全の輪広げたい」

自然共生サイトの認定は、生物種や遺伝子などの多様性が長年減り続けてきた傾向を、30年までに回復へ転換させることを目指して、政府が昨年3月に策定した「生物多様性国家戦略」に基づいて始まった。

対象は里地里山や社寺の森、企業や研究機関の森林、都市部の公園、河川敷、ゴルフ場、スキー場などのうち、生物多様性が守られている場所。1回目は全国122か所のうち、府内で「新梅田シティ 新・里山」(大阪市北区)や「阪南セブンの海の森」(阪南市)など4か所が認定された。

2回目の今回は63か所で、府内では、泉南市の「ドコモ泉南堀河の森」と岬町の多目的公園「いきいきパークみさき」内の多奈川ビオトープが選ばれた。

いきいきパークみさき(約128ヘクタール)は、かつて豊かな山林だったが、01~05年に関西空港2期島の埋め立て用の土砂計7000万立方メートルを採取するために切り崩された。工事終了後の07年頃から、自然再生の取り組みが始まり、14年3月に多目的広場や展望台などの公園・緑地ゾーンとして再生された。

多奈川ビオトープもパーク内の2・39ヘクタールに整備され、過去にいた生物を呼び戻そうと、地元のボランティア団体や町などが、かつての生育種を植栽するなどして湿地や草地を再現。現在は府が絶滅のおそれのある動植物をまとめた「府レッドリスト」で絶滅危惧2種のニホンアカガエルやナニワトンボなどが生息し、オオタカやニホンミツバチ、キツネなどの姿も見ることができるといふ。

府内で1回目に選ばれた4か所のうちのひとつで、関空の護岸に広がる藻場は、空港として唯一認定されている。

日本ビオトープ管理士会近畿支部の池口直樹支部長は「自然を潰した場所と、その土で埋め立てた空港との両方が生物多様性の保全で評価され、国際的にも知ってもらえるようになるので励みになる。今後も観察会などで安全に利用できる『自然へのエントランス』の役割を果たしていきたい」と力を込める。



関西空港護岸の藻場(関西エアポート提供)

環境省は26年度までに500か所以上のサイト認定を目指す予定で、担当者は「ビル緑化などに代表される人工的なものでも、生物多様性にとって良いものがあるということを知ってもらい、その価値への意識が浸透することにつながれば」と話している。

## ◆30by30

2022年12月にカナダで開催された、国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で、生物多様性を保護しようと、30年までの達成を目指すため採択された国際的目標。

世界の保全地域は、陸域(内陸水域含む)が17・28%、海域(沿岸域含む)は8・3%で、国別で陸域と海域の双方で30%を超えているのは、ドイツのみ。

環境省によると、日本は国立公園を始め、里山や企業が所有する緑地など、陸域の20・5%、海域の13・3%が保全されている。



**場所** 大阪府泉南郡岬町

**面積** 2.39ha

### 活動目的

- 生物多様性保全を主目的とする。
- 5年後、10年後、30年後の「（自然再生進捗）指標生物」を定め、多様な生きものの生息環境創出・保全を目的としている。

### サイト概要

- かつて、この場所は山や谷が広がっており、たくさんの生きものが暮らしていたと思われるが、「関西国際空港」第二期事業の土石採取場となり、その跡地は「いきいきパークみさき」（多奈川地区多目的公園）として整備された。
- その多目的公園の一角に、2.3ha強の「多奈川ビオトープ」があり、かつてここに暮らしていた生きものたちを呼び戻そうと、彼らの生育・生息場所となる湿地や草地、ため池の創出・維持管理を通して、「自然再生」に取り組んでいるところである。
- また、ボランティア中心による「自然再生活動」だけでなく、「自然観察会」や「自然体験イベント」なども実施している。



### 土地利用の 変遷

- 里山環境が広がっていた場所が、関西国際空港第二期工事の土石採取地に選定された。
- 工事完了後の2007年頃から、自然再生に取り組み、現在に至る。
- その過程で、ナルトサワギクの繁茂、ヒメガマによる水面の喪失などの対策にも追われながら、現在では多くの生きものが生息する自然が蘇りつつある。

### サイト周辺 の環境

- 里山環境の中に位置する130ha強の土石採取跡地には、スポーツ広場やメガソーラー発電所、事業所等が立地している。
- この「多奈川ビオトープ」エリアは、土石採取にかかる環境アセスメントで、自然再生エリアに位置づけられた場所である。

### アピール ポイント

- 行政（大阪府・岬町）、企業（南海電気鉄道株）、研究機関（大阪府立環境農林水産総合研究所）、ボランティア団体（日本ビオトープ管理士会近畿支部）が協働で、毎月1回の自然再生活動に取り組んでいる。【エコアッププラン作成済み】
- また、年7回の自然観察会を開催しており、2023年度は計60組178名の参加があった。
- この場所で撮影した写真を使った「生きもの図鑑2023」を今春、作成した。  
<https://www.town.misaki.osaka.jp/material/files/group/7/tanabiozukan.pdf>

生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

環境省 重要里地里山 No.27-21 泉南郡岬町

【選定理由や内容】

- 府南端の山間部に位置する、岬町多奈川地区多目的公園と周辺の森が対象である。
- 園内には約2.4 haのビオトープが整備され、良好な水辺環境が復元されており、里地里山に特徴的な種であるゲンジボタルが多数確認されている。
- また、周辺にはアカマツ、ウバメガシ、コナラなどの里山林が広がっており、大阪では南部にしか見られないバクチノキ、タイミンタチバナなどの暖温帯性の植物が生育している。



写真説明：区域内の上空を旋回する「ノスリ」

## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 【場の概況】

■本サイトは水面（ため池と湿地）と草地環境の維持に努めており、アカメガシワやトウネズミモチ等、木本類は早期に伐採することで草地の維持を行っている。（隣接山林が森林法の保安林指定を受けており、将来に渡って森林環境が維持されるものと考え、本サイト内は水面と草地を維持している）

■草地については、一塊のエリアを3～4区分して、刈払いの時期をずらすことで、草丈の異なる状況にしている。

■水面については、ヒメガマの繁茂が著しく、一時ほぼ水面全体を覆い尽くしてしまったので、ツバメやトンボ類の種数が減少、その状況を改善すべく、一部に「ヒメガマ保全ゾーン」を確保し、当該ゾーン以外のヒメガマを伐採することとした結果、2～3年後には広い水面の復元に成功した。

■以上のとおり、かつての里山に普通に見られた「草地」を重視し、本サイトではその維持管理をしている。

## 【主な植生】

■本サイト内の木本の多くは、子どもたちが記念植樹した「クヌギ」の苗生が、樹高数mに生長したもの

■草本類は、主な群落が「ナルトサワギク」⇒「セイタカアワダチソウ」⇒「ススキ」の流れで遷移

■水面は「ヒメガマ」、「カンガレイ」が多く、一時衰退した「ヒルムシロ」が復活しつつある

## 【確認された主な動植物など】

■鳥類： トビ、ミサゴ、ノスリ、オオタカ、ハイタカ、フクロウ、キジ、オオルリ、キビタキ、ほか  
※2022年4月から「鳥類標識調査」を実施中（これまで19回実施。詳細は次のアドレスから）  
⇒ <https://www.biotope-kinki-shared.com/>

■哺乳類： アナグマ、タヌキ、ノウサギ、イノシシ、ニホンイタチ  
※2023年3月から自動撮影カメラを設置して観察中

■昆虫類： ウラゴマダラシジミ、モンキチョウ、シロスジカミキリ、ベニトンボ、ほか  
※主な生きものは「生きもの図鑑2023」参照⇒

<http://www.town.misaki.osaka.jp/material/files/group/7/tanabiozukan.pdf>



写真説明：区域内の上空を低く飛ぶ「ハイタカ」



写真の説明：夜間、区域内を歩く「アナグマ」

## 生物多様性の価値

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

◆毎年7回の自然観察会と一般開放デー（通常は立入禁止としている）、1回の自然体験イベントを開催し、多くの方々に「身近な小自然」の素晴らしさ、かけがえのなさを体感してもらっている。

## 【主な植生】

◆隣接地が、森林法第25条に基づき指定された「保安林」であり、当該地が「樹林地」として今後とも維持されることから、本サイト内では「草地」（乾性草地と湿性草地）の維持に努めている。

◆草地については、種子の散布等の人為的な手段は講じず、自然の芽生えを管理している。

## 【確認された主な動植物など】

■鳥類： トビ、ミサゴ、ノスリ、オオタカ、ハイタカ、フクロウ、キジ、オオルリ、キビタキ、ほか

※2022年4月から「鳥類標識調査」を実施中（これまで19回実施。詳細は次のアドレスから）

⇒ <https://www.biotope-kinki-shared.com/>

■哺乳類： アナグマ、タヌキ、ノウサギ、イノシシ、ニホンイタチ

※2023年3月から自動撮影カメラを設置して観察中

■昆虫類： ウラゴマダラシジミ、モンキアゲハ、シロスジカミキリ、ベニトンボ、ほか

※主な生きものは「生きもの図鑑2023」参照⇒

<http://www.town.misaki.osaka.jp/material/files/group/7/tanabiozukan.pdf>



写真説明：本サイトでの自然観察会の様子



写真説明：本サイトでの自然体験イベント（木工）

## 生物多様性の価値

## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

## 【場の概況】

- 本サイトでは、ため池と湿地、草地環境の維持管理に努めており、隣接地に樹林（保安林）が広がっていることから、生息に異なる環境を必要とする「ヤマアカガエル」や「ニホンアカガエル」が生息
- 野鳥を捕食する「オオタカ」や「ハイタカ」、魚食性の「ミサゴ」、さらには里山の多様な動物を捕食する「ノスリ」の姿を確認することも多く、猛禽類の生活を保証する生物相の豊かさが育まれている。

## 【確認された希少種】

- 鳥類： アオバズク、コミミズク、コサメビタキ、オオタカ、ノスリ、フクロウ、セッカ、ほか  
※2022年4月から「鳥類標識調査」を実施中（これまで19回実施。詳細は次のアドレスから）  
⇒ <https://www.biotope-kinki-shared.com/>
- 哺乳類： アナグマ（成体）、ニホンイタチ（成体）、カヤネズミ（巣）  
※2023年3月から自動撮影カメラを設置して観察中
- 昆虫類： 希少トンボ類、ほか
- 両生類： ヤマアカガエル（成体、幼体、卵塊）、ニホンアカガエル（成体、幼体、卵塊）、ほか

※主な生きものは「生きもの図鑑2023」参照⇒

<http://www.town.misaki.osaka.jp/material/files/group/7/tanabiozukan.pdf>



写真説明：鳥類標識調査実施中

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

■本サイトには、水辺（ため池、湿地）、草地が広がっており、隣接地には保安林の広い樹林地があることから、多くの野鳥類の越冬、繁殖、移動途中の休息の場となっている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

- 越冬： ノスリ、ハイタカ、シロハラ、ジョウビタキ、アオジ、ベニマシコ、ほか
- 繁殖： ウグイス、メジロ、ホオジロ、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、オオルリ、キビタキ、ほか
- 移動： コサメビタキ、サメビタキ、クロツグミ、ほか
- 採餌： カワセミ、モズ、ほか

キビタキ オス成鳥



写真説明：鳥類標識調査で標識を付けた個体

オオルリ オス幼鳥



写真説明：鳥類標識調査で標識を付けた個体

## サイトの活動計画・モニタリング計画

## 活動計画の内容

## 多奈川ビオトープ エコアップ活動計画

- 「多奈川ビオトープ」のエリア内は、「浅いため池」と「湿地」及び「草原」からなるエリアとして維持管理するとともに、自然観察（自然環境学習）の場として「観察コース」や「展望広場」等を整備する。
- 隣接地の「森林」は、今後とも「自然林」として存続する（保安林指定地）可能性が高いので、本エリア内は「樹林地」を育てることよりも、「草地」や「水辺」環境の維持に主眼を置く。
- 別図のとおり、本サイト内で重点的に管理を行う場所を、「①～⑩」に区分し、それぞれの管理作業内容は「7.サイトの追加情報」に記載のとおりとする。



## モニタリング計画の内容

## 【モニタリング対象】

- 鳥類、両生類、昆虫類、植物を対象とする。

## 【モニタリング場所】

- エリア全域（ただし、ゾーニング図 ①～⑩のエリアを重点的に）

## 【モニタリング手法】

- 遊歩道のラインセンサス： 毎月1回（第3土曜日）
- 鳥類標識調査： 年10回程度
- 自動撮影カメラ（哺乳類）： 毎日24時間

## 【モニタリングの実施時期及び頻度】

- 日本ビオトープ管理士会近畿支部員が中心になって計画立案・実施・分析
- 必要に応じて、有識者の助言を得る。

## 【モニタリング実施体制】

- 日本ビオトープ管理士会近畿支部員が中心になって実施
- 自然観察会開催時は、参加者の協力を得た「市民参加型」で実施